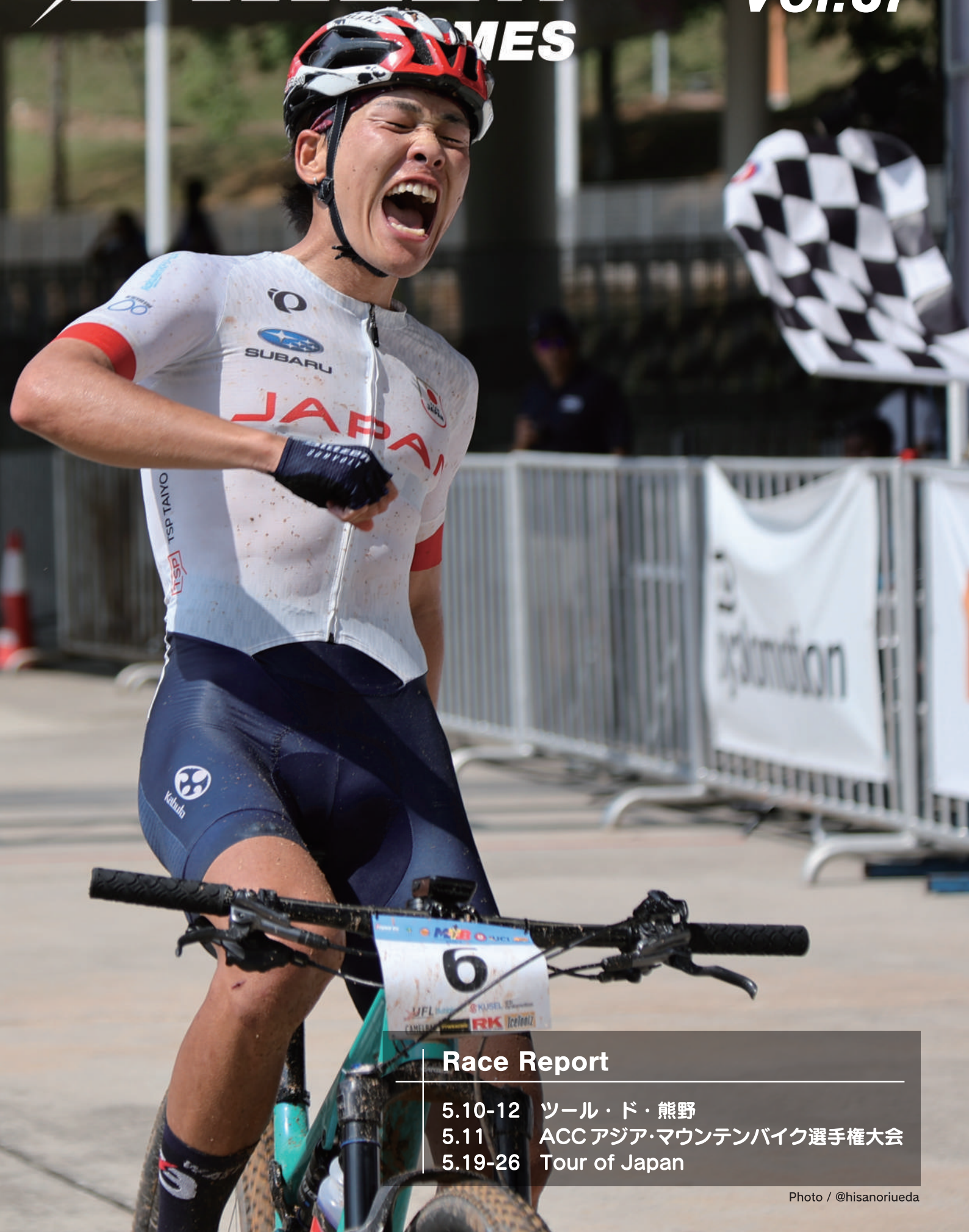




Race Report

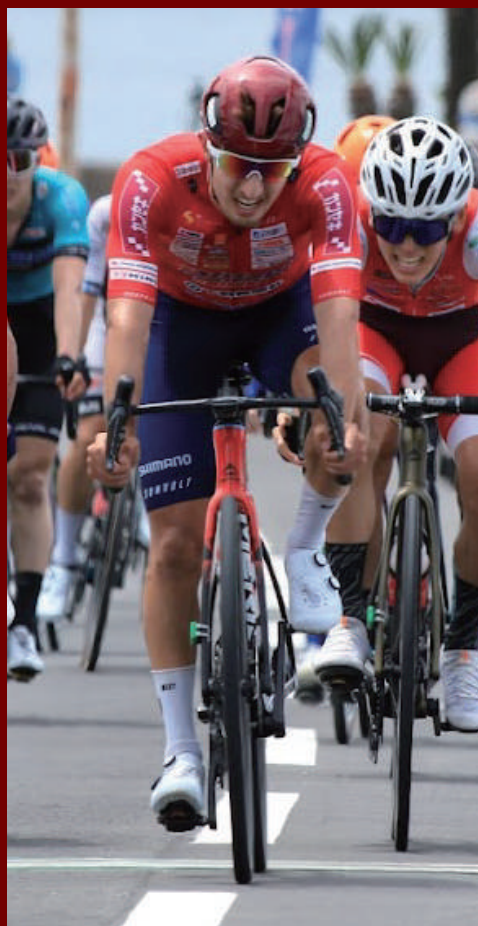
- 5.10-12 ツール・ド・熊野
- 5.11 ACC アジア・マウンテンバイク選手権大会
- 5.19-26 Tour of Japan

ツール・ド・熊野 和歌山県及び三重県熊野地方

谷が総合9位、アコスタ総合10位！

チーム総合3位にチーム力向上を見る

Digest movie



Digest movie

例年、ツァー・オブ・ジャパン後に開催されていたが、今年は順序が入れ替わり5月2週目におこなわれた ツール・ド・熊野。宇都宮ブリッツェンからは、日本人選手の谷順成、武山晃輔、花田聖誠に加え、台湾人のフオン・チュンカイ、コロンビア人のジェシット・シエッラ、ルーベン・アコスタの6名で臨んだ。初めて採用されるコースもあったが、第2ステージはおなじみの丸山千枝田を上る山岳コースで、アコスタはシーズインからこのステージをターゲットにしていた。

初日から谷、シエッラ、アコスタがトップとタイム差なしでフィニッシュし、第2ステージも谷とアコスタがトップと並んで終えることができたが、ステージ優勝は叶わなかった。最終ステージはポーナスタイム争いの様相となり、アコスタがスプリント勝負でステージ5位となった。

総合成績はポーナスタイム差が影響し、谷が9位、アコスタが10位に。最低限の目標であるUCIポイントには獲得した。またトップ10に2名の選手を送り込めたため、チーム総合は3位となった。新しいチームとなつて、初めて挑む国内ステージレース。チーム力が上向きなことを確認できた。



ツール・ド・熊野 総合リザルト

1 位	岡篤志 (JCL チーム右京)	8h11' 09"
2 位	クドウス・メルハウィ・ゲブレメディン (トレンガヌ・サイケウングチーム)	+0' 11"
3 位	山本大吾 (JCL チーム右京)	+0' 14"
9 位	谷 順成	+0' 17"
10 位	ルーベン・アコスタ	+0' 18"
16 位	ジェシット・シエッラ	+0' 25"
52 位	フォン・チュンカイ	+22' 10"
DNF	山花聖誠	

【谷 順成のレース後のコメント】

昨年は、台風の影響もあり2日間で開催された。今年はコースリニューアルされ3日間ともバードナオコースだった。僕は関しては、ルーベン選手とジェシント選手が手におかなくて、1日目が結構疲れて動くことができた。1日目のアシストポイントで獲得した1秒が総合トップ10に繋がって、昨年はよい走り方ができたと思う。ただ、もう少し自分が上手くていいには優勝に近づいた選手のように手か反省していきたい。ルーベン選手とジェシント選手は強いが、フオン・チュウカイ選手と武山選手がサポートしてしてくれたおかげで戦えたと思う。今回、花田選手が下で下りした(第1ステージでDNF)が、6人くらい下で下りたと思えると思うので、チーム力を上げていきたい。また、全日本選手権では、日本人だけで戦いたいといかない。最終ステージで勝った愛工業 Engineering チームやキヤノンレーシングチームと盛り合いたいといかないので、まずはそれぞれの期間に個々の力をあげたい。彼自身も優勝を目指したいと思ってるので、彼らと盛り合えるような力ををつけたい。



【フォン・チュンカイのレース後のコメント】

最終ステージはミーティング通りに、まずジェシットが逃げに乗り、ほかの選手も積極的に動いて、最後でスプリント争いのときも谷戸ループが動いてくれて、特に武山がいい仕事をしてくれて、自分のスプリントに貢献してくれて感謝している。ナースにこんなことをスプリントに入ることができた。ただ、残り3kmほどのところで集団内で落車が起き、それでポジションを一度下げってしまった。そこから必死に上がったが、ベストのポジションまでは行けなかったのが残念だ。そんな中でも8位に入れた。

ツアー・オブ・ジャパンは上りの多いレースで、自分だけでなく、クライマーも脚を使って東京ステージに入った。ここまでの疲労がこたえる最終ステージだった。特に宇都宮ブリツツェンとって厳しかったのは、このツアー・オブ・ジャパンの参戦が決まったのがツール・ド・熊野の期間中で、ツール・ド・熊野はルーベンもジェシットもよく走れたが、ツアー・オブ・ジャパンもベストは尽くしたが、ツール・ド・熊野ほどのコンディションはなかった。

レースがスタートし、1周目からたくさんのブリッツェンファンの方が応援して
くださり、たくさんのブリッツェンフラッグを見た。まるで宇都宮でレースをして
いるようだった。毎レース、声援に力をもらった。本当に感謝している。

Tour of Japan 個人総合時間賞 リザルト

1 位	ジョバンニ・カルボニー (JCL TEAM UKYO)	18h55' 45"
2 位	クドウス・メルハウィ・ゲブレメディン (トレクナ サイクリングチーム)	+2' 06"
3 位	ベンジャミン・ダイボール (ヴィクトワール広島)	+2' 12"
23 位	ジェシット・シエウラ	+12' 18"
34 位	谷 順成	+22' 13"
48 位	ルーベン・アコスタ	+37' 14"
54 位	武山晃輔	+46' 45"
66 位	フォン・チュンカイ	+54' 20"
DNF	花田聖誠	

当初はセレクトから漏れていたチームであったが、ツール・ド・熊野の途中で緊急参戦が決まったツアー・オブ・ジャパン。8日間の戦いの前に、熊野でレース強度まで上げられたのは、宇都宮ブリッツェンにだけは良かったかもしれない。

メンバーは熊野と同じ6名。どのステージも逃げに乗る姿勢を見せ、特に谷は、バレード走行中でも最前列を確保するなど常にアグレッシブだった。

残念ながら花田が落車でDNFとなり、アコスタとシエラに疲労が見えて思うように動けなかったが、注目すべきは最終の東京ステージだ。

まずコロンビア人2人は、ほとんどのアタックにどちらかが乗り、たとえ乗れなくとも単独で追いつくなどして、まさに脚を削る走りでチームに貢献した。前の相模原ステージも、逃げとの差を縮めるべく集団牽引に入る姿を見せ、山岳ステージだけでなくこういう動きもできるのだと認識することができた。しかも東京ステージは激しいアタック合戦が1時間半も続いていた。よくよく決まった7人の逃げにシエラが乗った。

この1時間半に及ぶアタック合戦の間に、谷も逃げ

に加わるうともがいた。シエッラ、アコスタが少し脚を休めている間は、谷がアタックをさばき、逃げが決まりかけたときは誰よりも積極的に前を引き、逃げが諦めムードを出したときも、谷が最後まで粘った。やがてシエッラとアコスタの脚が回復したら、谷はフォンのケアに回った。武山は最後までフォンをいいポジションに送れるよう立ち回る役だった。スペースを早つけるのがうまい武山のお陰で、フォンは最後のスプリントに参加。フォンはこれまでのチームメイトの働きを一身に受けてスプリントに加わった。優勝は予想通りリマッテオ・マルチェッリ選手(JCLTEAMUKO)となったが、2位以降もトラックで世界と戦う選手たちが名を連ねる中で、シングルリザルトの8位となった。フィニッシュ3kmほど手前で起きた落車を避けるために、少しポジションを落としてしまったのが残念だったが、ピュアスプリンターではないフォンのこの成績は経験の成せる技か。

このツアー・オブ・ジャパンでは、与えられた状況すべてを自分たちの力に変える姿が見られた。チームムードの絆が日に日に深まる8日間だった。

ツアー・オブ・ジャパン

堀—京都—いなべ—美濃—
信州飯田—富士山—相模原—東京

緊急参戦もチームの絆と連携が
日に日に深まっていった8日間



ACCアジア・マウンテンバイク選手権大会 マレーシア 3か月の綿密な計画の上で悲願達成 沢田時 MTBアジアチャンピオンに

Photo / @hisanoriueda



沢田時は2月のシクロクロス選手権の帰りのフライトで失意の中にいた。世界との圧倒的な差。その不甲斐ない気持ちをぶつけた先が、5月のMTBアジア選手権優勝に向けての計画表作りだった。3か月先の目標に向けた日々のトレーニングスケジュールやレース計画、理想とするパワー数値や体重など全てを帰国のフライトで計画したのだ。

そうして臨んだレース当日。マレーシアの首都クアラルンプール近郊にある公園内のMTB専用コースが舞台だった。コースの大半が森の中をアップダウンするシングルトラックで、沢田の得意なコースだったかとにかく森の中の蒸し暑さが半端ではなく、前日のU23やジュニアのレースでも熱中症でペース

を落としている選手がいた。

日本の8月のような気温の中、14時スタートに向けて準備を進めた沢田。体温を上げすぎないように7割ほどのウォームアップに留めたが、ギヤが1枚軽いのではないかと錯覚するほどに脚が軽く良く回り、この日に向けて万全の体調に仕上げられたことを確信した。

スタートは上手く反応して2番手で最初のコーナーをクリア。リスク回避のためすぐに先頭が上がって、抜かれないライン取りを意識しながらレースを進める。先頭は沢田と北林力選手、Denis Sergiyenko選手（カザフスタン）の3名に絞られた後、北林選手が遅れ、一時は中国人選手が追いつくも沢田

がつまくさばく。そして残り2周でSergiyenko選手との一騎打ちとなった。

途中に降った雨のせいで岩場は滑りやすくなり、Sergiyenko選手がタイヤを滑らせ脚をこいてラインが塞がる場面もあったが、沢田はすぐにシクロクロスのようにバイクから飛び降り、ランニングで追い抜くことができた。3種目全ての経験を駆使してこのレースを戦っていた沢田。

最終周まで一騎打ちとなったレースの勝率には、MTBでもシクロクロスでも自信があった。暑さも疲労もありかなりキツかったが、昨年のジャパンカップの古賀志の登りに比べればこんな苦しみは一瞬で終わると言い聞かせた。そして勝負所と決めていた登りでSergiyenko選手のペースが落ちたと思った瞬間、後ろから全開でアタック。相手が反応できていないことは分かったが、ここまでくれば脚よりもメンタルの勝負であり諦めなかった方が勝つというもの。得意の下りでさらに差を広げたことを確認し、最後の力を振り絞って、沢田はアジアチャンピオンとなった。



【沢田時のコメント】

アジア選手権はジュニアの頃に銀メダルは獲得したことはあるものの、そこからは表彰台に登ったことではなく先輩後輩の活躍をみて悔しい思いばかりしてきた大会だった。ロードレースを始めたことでより広い視野でレースを組み立てられるようになったことが成長に繋がり、昨年のアジア大会での銅メダル、そして今回の金メダルを獲得することができた。30歳となった節目である年に大きなタイトルを獲れたことはとても嬉しく、3か月プランでしっかり本番にピークを持ってこられたことは、これからの競技生活においても大きな自信となると思う。

ACCアジア・マウンテンバイク選手権大会 リザルト

1位 沢田 時 (日本)	1:27:29
2位 SERGIYENKO Denis (カザフスタン)	+0:00:27
3位 YUAN Jinwal (中国)	+0:03:15

【小学4年生～中学生対象】 自宅でロードバイクレッスン

Winning Road

プロロードレーサーが指導するオンラインレッスン **ウイニングロード**



小学生クラス：毎週火曜日の 17:00 ～ 18:00
中学生クラス：毎週火曜日の 19:00 ～ 20:00

月々 **8,800円**～
4カ月コース **35,200円**

**7月生
募集中!**



詳しくは WEB サイトへ

運営会社：サイクルスポーツマネージメント (株)

Blitzen

電話：028-611-3993



私たちは宇都宮ブリッツェンを応援しています。

MERIDA **miyata** **カンヤキ** **下野新聞社**

Mitutoyo **NTT東日本** **TOYOTA WOODYOU HOME** **日成メディカル** **ナカニシ**

SHIMANO **足利銀行** **ORES** **ローラン** **tt** 株式会社 ティーツーテクニカル **Honda Cars** 栃木中央

アプテ **とちぎテレビ** **信越化学工業** **仲田総業株式会社** **TOCHIGI** **GOKO** **たけやま**

TCB観光 **作新学院** **関東自動車** **宇都宮食販** **NEX NIPPON EXPRESS** **Uboken** **BOA** **栃木信用金庫**

くにい矯正歯科 **フクダヘルシー** **高谷歯科クリニック** **HINO** **SUBARU** **トヨタカローラ栃木**

Dexterials **CRTハウジング** **Continental Home** **JB JARBIS** **茶商事株式会社** **Apecs** **KODAIRA ENTERPRISE**

藤井産業 **QUEEN** **MIZUHO** **みずほ証券** **多摩山不動産** **Okoko 横尾製作所** **Wellness** **株式会社 ツカサ精密** **mommya** **宇都宮中央法律事務所**

栃木トヨペット **TAKATSUE MTB REPORT** **山崎** **渡辺産業株式会社** **seibu** **宇都宮文化センター株式会社** **たいしや** **大華鉄工建設** **Fuji Logisticargo**

Sokan **PR TIMES** **ISHIKAWA** **第一生命** **ROOTS SPORTS JAPAN** **景観デザイン** **鹿野建設株式会社** **住友生命** **Wakely** **児玉税理**

日本生命 **足利電機株式会社** **天昇堂** **ゆめクリニック** **宇都宮塗料工業株式会社** **HOZEIYA**

Thank you for your support

Blitzen 3